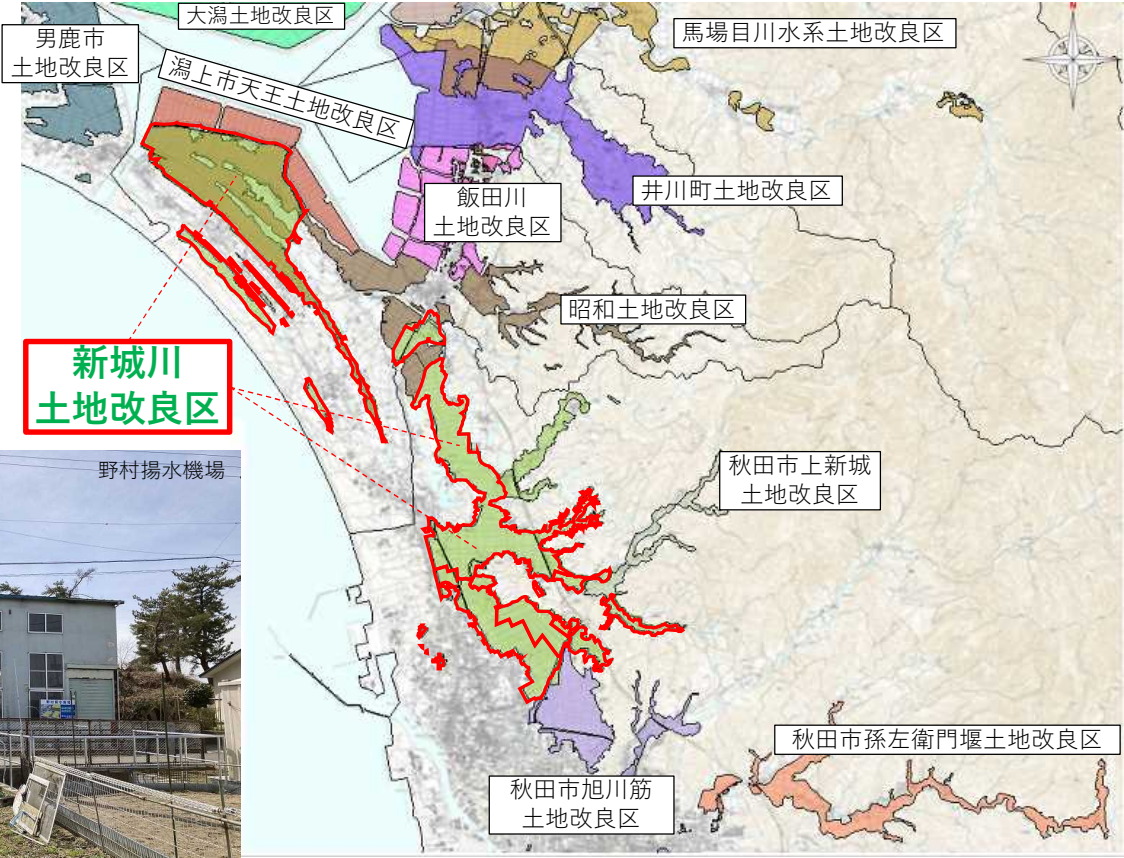


新城川土地改良区

受益面積 2,498ha

地域の概要

- 新城川土地改良区の受益地は秋田市の北部（旧上新城村・旧下新城村・旧飯島村・旧金足村・旧外旭川村）とそれに隣接する潟上市（旧昭和町・旧天王町）の2市にまたがる農村地帯である。受益地は秋田市北部、潟上市昭和地区の一部及び潟上市天王地区に大別される。
- 秋田市北部地区は太平山麓の西方に広がる区域で、その東方部は自然勾配約300分の1の勾配であり数段の段丘が見られるが、西方部は900分の1と比較的なだらかな地形となっている。土質は第4紀沖積層に属し、概ね埴壌土である。
- 一方、天王地区は陸繁島である男鹿半島の一部であり、土質は砂質土、勾配も1500分の1と平坦な地区である。
- 主要水源は、一級河川新城川、二級河川馬踏川、18ヶ所の溜池及び八郎潟調整池に依存している。



【内 容】

■ 地区の構成

1. 第1区・第2区（新城川・馬踏川掛かり）

■ 農業水利システム（1区：飯島・2区：下新城笠岡）

- ・（施設の状況）大滝沢ため池
- ・（施設の状況）道川頭首工・山の下揚水機
- ・（施設の状況）白山頭首工
- ・（施設の状況）比内沢ため池
- ・（施設の状況）五十丁頭首工・槻木頭首工
- ・（施設の状況）岩城頭首工
- ・（施設の状況）新城川掛かりの水路
- ・（施設の状況）猿田沢ため池
- ・（施設の状況）堀田沢ため池
- ・（施設の状況）箒田沢ため池

■ 農業水利システム（2区：金足）

- ・（施設の状況）吉田ため池・松下堤
- ・（施設の状況）黒川ため池
- ・（施設の状況）黒川第1頭首工・黒川第2頭首工
- ・（施設の状況）男潟（下刈揚水機場・小泉揚水機場）・女潟

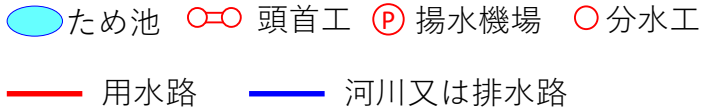
2. 第3区（天王：野村揚水機場掛かり）

- ・（施設の状況）野村揚水機場
- ・（施設の状況）細谷分土工
- ・（施設の状況）天王排水路・沖田揚水機

■ 施設の維持保全

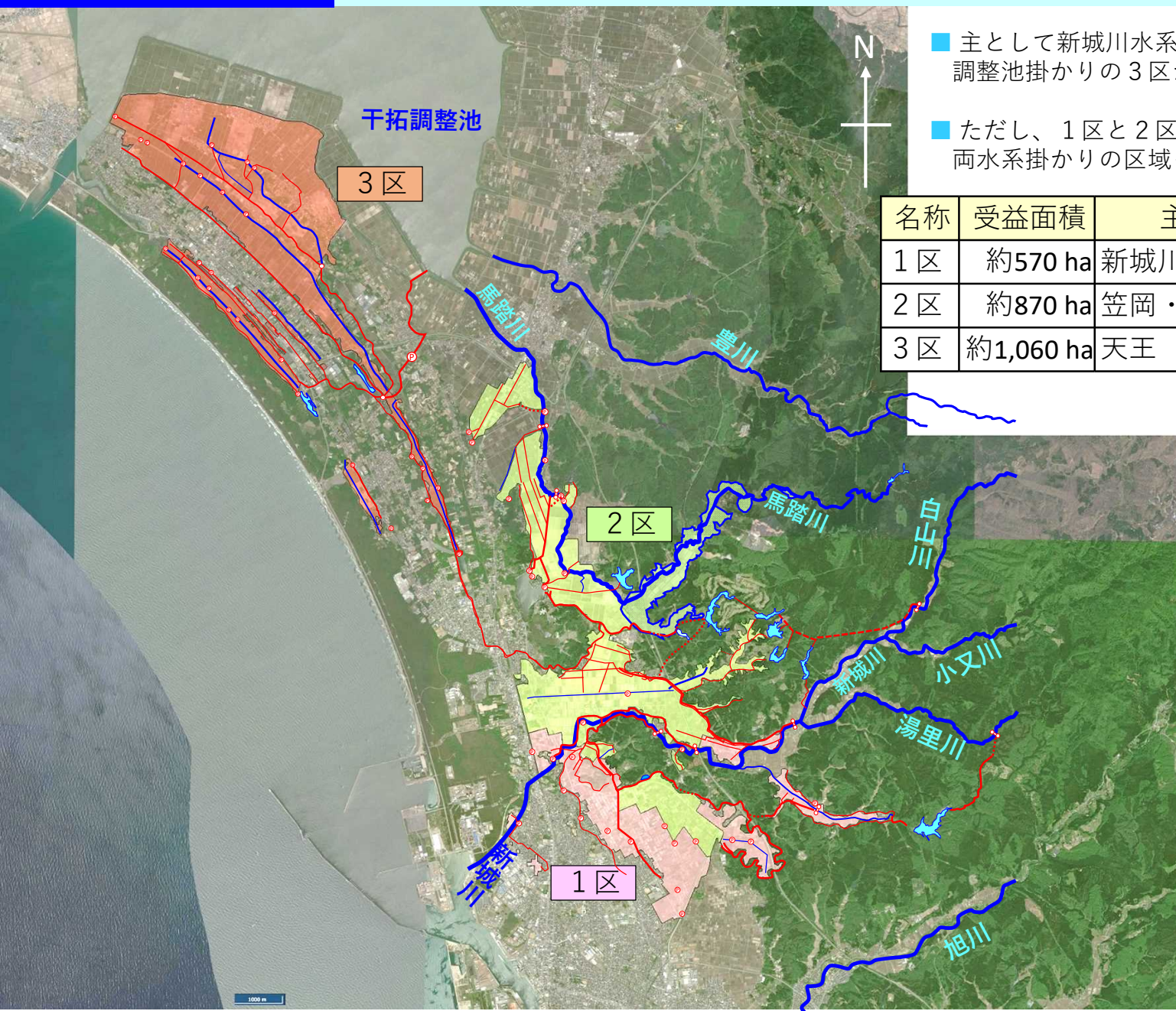
■ ほ場整備

■ 地域の歴史

作 成	秋田県 農業農村整備等技術検討委員会 秋田県秋田地域振興局農村整備課
協 力	・ 新城川土地改良区 ・ 秋田市、潟上市 ・ 秋田県土地改良事業団体連合会
作成経緯	ver. 1.0 令和7年3月
基本凡例	 ※ 資料作成の都合上、必ずしもこれらのとおりの表記となっていない場合がある
出 典	・ 秋田県水土里情報システムのレイヤを使用したものは次のとおり 地形図：「測量法に基づく国土地理院長承認（使用） R6JHs 74-GISMAP59536号」 航空写真：「© NTT InfraNet, JAXA」 衛星写真：「© NTT InfraNet, Maxar Technologies.」 ・ その他土地改良区提供資料など
備 考	本資料は、秋田県の農業を支える基盤であり、地域資源でもある農業水利施設について、土地改良区毎にその構成、歴史、維持管理等の概略を示し、土地改良区の組合員のみならず地域住民の皆様に対し広く周知するものです。 これにより、各地域の農業水利施設を保全管理することの重要性について理解を深めていただき、農業水利施設の持続的な機能発揮と秋田県の農業の発展の一助となることを目指しています。 本資料については、現地調査に加え、水土里情報システム内の資料、過去に実施した事業の資料、土地改良区からの提供資料、土地改良区からの聞き取りなどをベースに作成していることから、時点が古い情報や現状と比較し正確ではない情報が含まれていることがあります。このため、本資料を閲覧される方に置かれましては、このことを予め御了知いただくとともに、本資料を利用すること等により生じるトラブルや損害等については、秋田県ではその責任を負いかねますので、予め了承ください。

地区の構成

東部はため池・頭首工、南部は頭首工・揚水機場、北部は揚水機場が主体

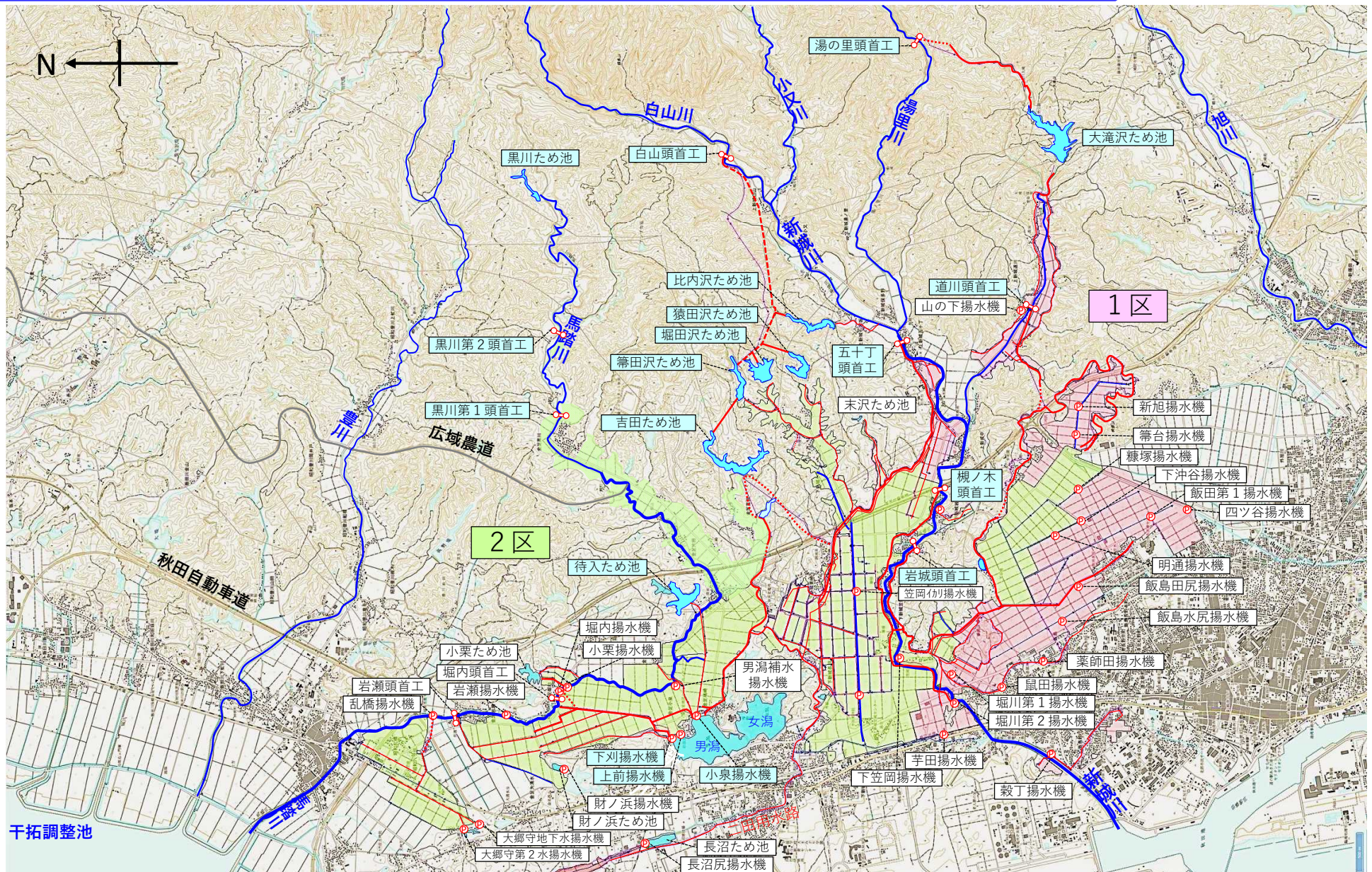


■ 主として新城川水系の1区、馬踏川水系の2区、干拓調整池掛かりの3区から構成。

■ ただし、1区と2区は受益地が互いに入り組みつつ、両水系掛かりの区域もあり複雑な構造となっている。

名称	受益面積	主な受益地	主な水源
1区	約570 ha	新城川上流・飯島	新城川
2区	約870 ha	笠岡・金足	新城川・馬踏川
3区	約1,060 ha	天王	干拓調整池

1. 第1区・2区 (新城川・馬踏川掛かり) 受益面積 約1,440 ha

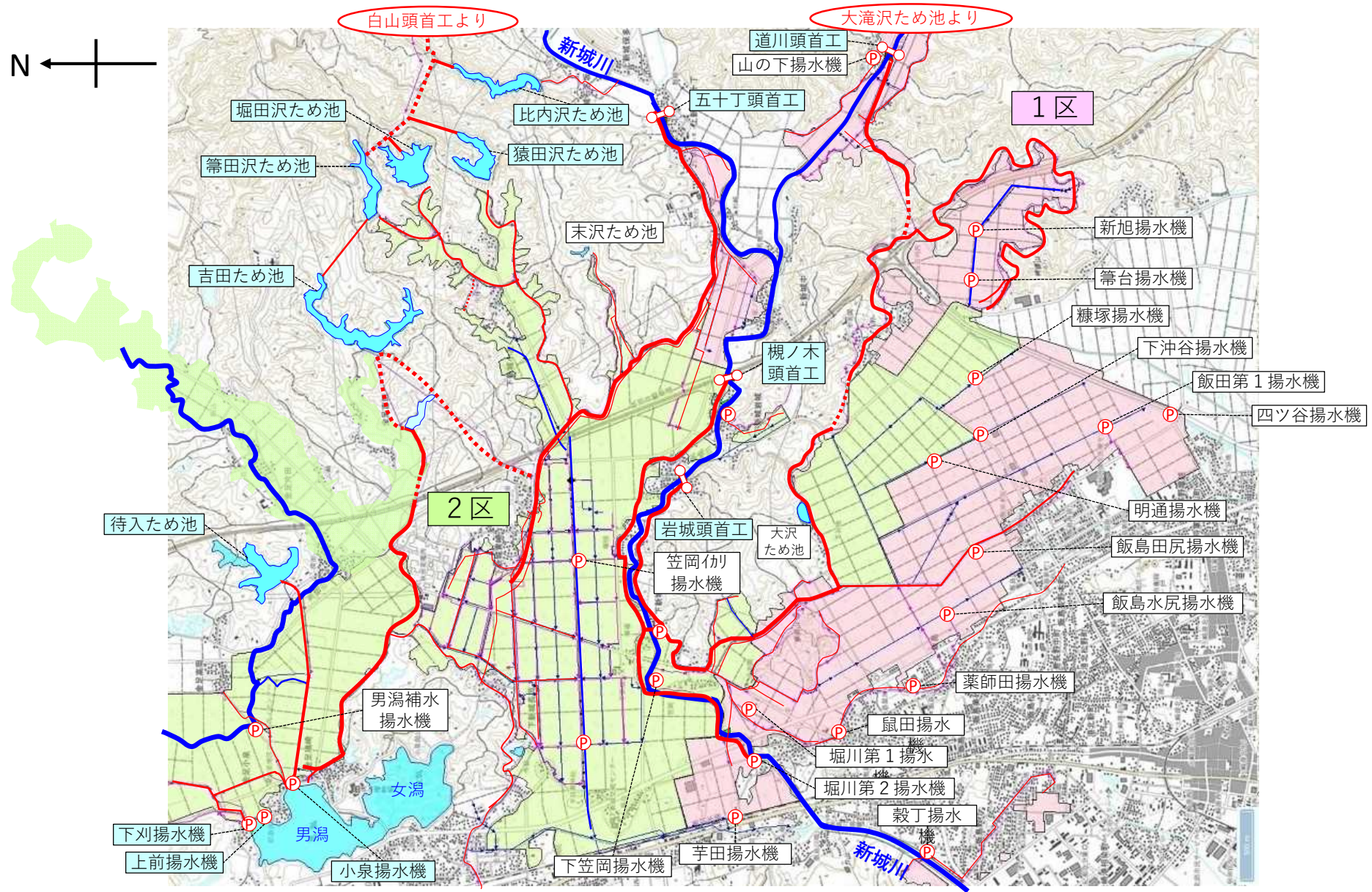


農業水利システム

1区（飯島）・2区（下新城・笠岡）

ため池・頭首工・揚水機場からの供給主導型

- 河川から頭首工又は揚水機場で取水し開水路により送水する供給主導型システムとなっている。
- 流域の小さい比内沢・猿田沢・堀田沢・箒田沢・吉田沢の5ため池は、新城川上流の白山頭首工からの補水が可能となっている。



(各施設の状況)

大滝沢ため池

形式	堤高	堤長	貯水量
アースダム（中心コア型）	26.0 m	114 m	1,695 千m ³

- 大滝沢ため池は新城川支流の道川上流部に位置する。湯里川に設置された湯ノ里頭首工より非かんがい期に補水可能な構造となっている。
- 大滝沢ため池からの用水は道川頭首工により取水され、主に飯島地域において利用される。



貯水池・取水塔



堤体



洪水吐



下流水路

(各施設の状況)

道川頭首工・山の下揚水機

■ 道川頭首工は新城川支流の道川に設置された転倒式ゲートにより堰上げを行う頭首工である。

- ・ 右岸側では山ノ下揚水機により取水される。
- ・ 左岸側では自然取水により飯島地域まで導水される。

頭首工（左岸自然取水・右岸揚水機）



管理建屋



山ノ下揚水機



転倒式ゲート



左岸取水部



左岸取水部



(各施設の状況)

白山頭首工

- 白山頭首工は新城川上流の白山川に設置され、右岸側から取水を行う施設である。
- 取水された用水は隧道を通じ、比内沢・猿田沢・堀田沢・箒田沢・吉田沢の5ため池に流域変更・注水される。

頭首工左岸側より



頭首工右岸側より



頭首工右岸側より



取水水門及び土砂吐ゲート



隧道部入口



(各施設の状況)

比内沢ため池

形式	堤高	堤長	貯水量
アースダム（表面遮水壁型）	13.3 m	77 m	291千m3

- 比内沢ため池は新城川右岸側の支川上流に位置する。比較的集水域が小さいため、白山頭首工からの補水を受けることが可能となっている。
- 貯水は主として新城川本流の五十丁頭首工で取水され、下新城地域で利用される。



堤体・貯水池



貯水池



取水施設（斜樋）



洪水吐

(各施設の状況)

五十丁頭首工・槻ノ木頭首工

五十丁頭首工

■ 新城川本川に設置され右岸側において取水する頭首工であり、用水は岩城・下新城などの地域において利用される。



槻ノ木頭首工

■ 新城川本川に設置され右岸側において取水する頭首工であり、用水は下新城・笠岡及び一部は飯島などの地域において利用される。



(各施設の状況)

岩城頭首工

■ 新城川の五十丁・槻ノ木頭首工より下流に設置された頭首工であり、左岸側で取水した用水は山腹を迂回して飯島方面に至る。



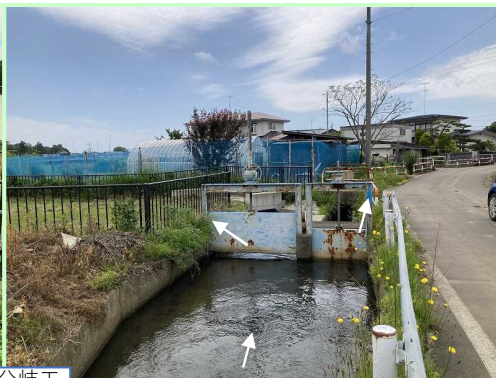
(各施設の状況)

新城川掛かりの水路

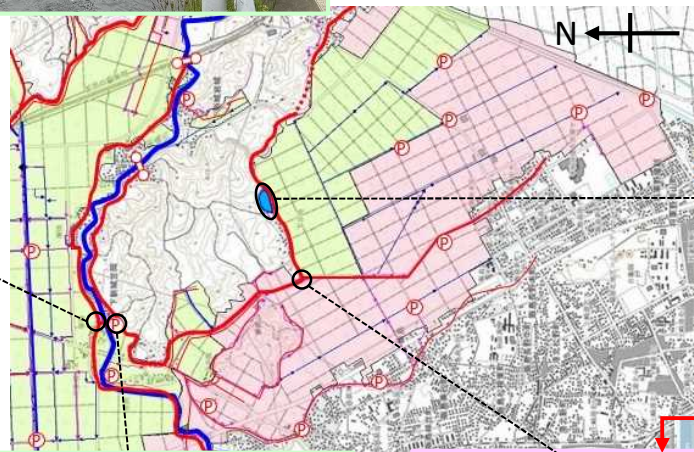
■ 2区→1区への接続部分の水路は、新城川を横断し、山腹部分を南に進む。



幹線水路分岐工



新城川横断サイフォンへ



大沢ため池及び道川からの水路



大沢ため池



サイフォン出口



サイフォン出口及び揚水機



(各施設の状況)

猿田沢ため池

形式	堤高	堤長	貯水量
アースダム（中心コア型）	20.5 m	218 m	946千m3

- 下新城小友の沢の3ため池の一つであり、最も南部に位置する。
- 比較的集水域が小さいため、白山頭首工からの補水を受けることが可能となっている。



堤体・貯水池



貯水池



(各施設の状況)

堀田沢ため池

形式	堤高	堤長	貯水量
アースダム（表面遮水壁型）	22.6 m	160 m	672千m3

- 下新城小友の沢の3ため池の一つであり、中間に位置する。
- 比較的集水域が小さいため、白山頭首工からの補水を受けることが可能となっている。



(各施設の状況)

簾田沢ため池

形式	堤高	堤長	貯水量
アースダム（表面遮水壁型）	25.7 m	104 m	341千m ³

- 下新城小友の沢の3ため池の一つであり、最も北部に位置する。
- 比較的集水域が小さいため、白山頭首工からの補水を受けることが可能となっている。



堤体



貯水池・取水施設（斜樋）

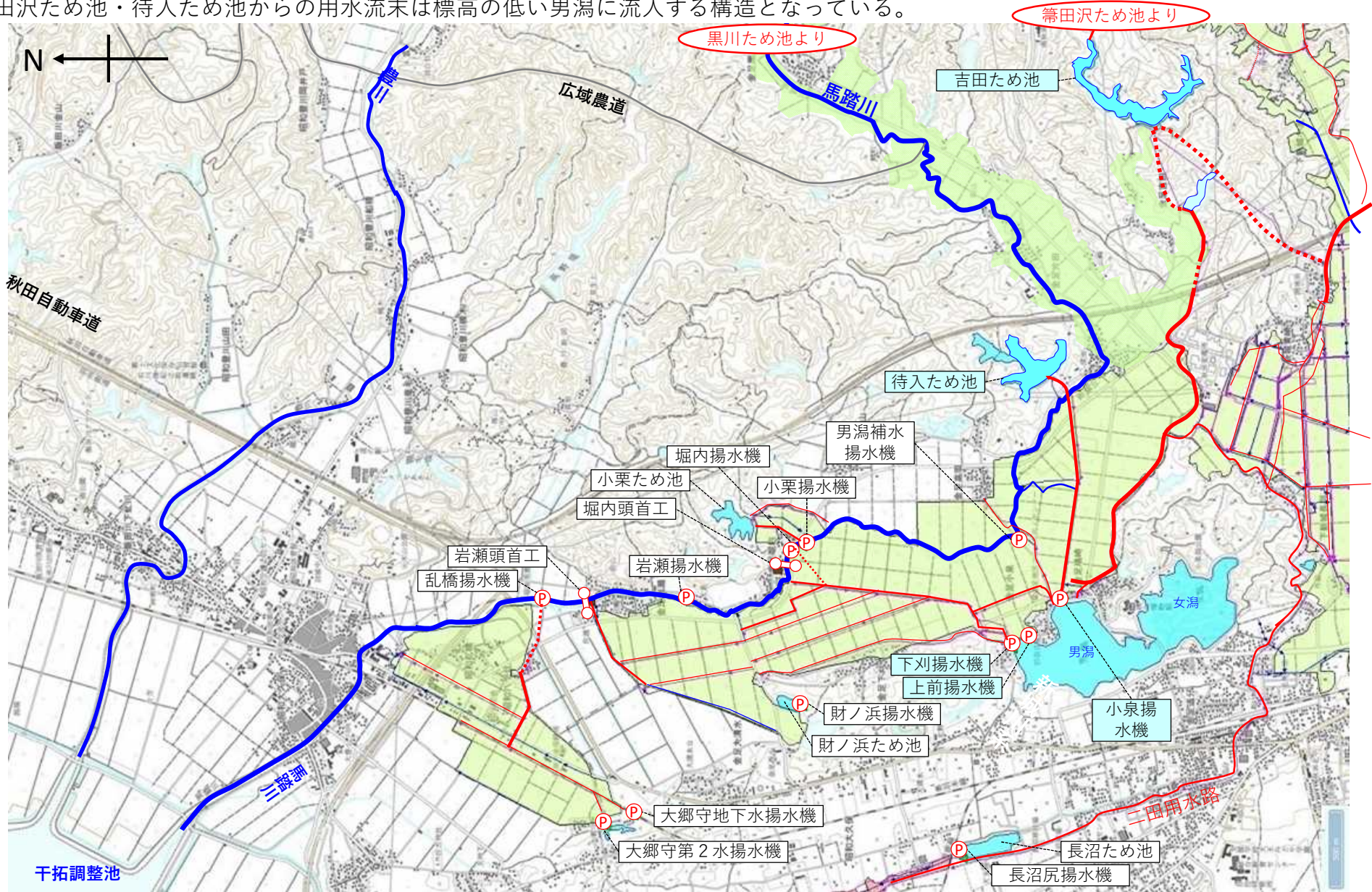


取水施設（斜樋）



農業水利システム 2区（金足） ため池・頭首工・揚水機場からの供給主導型

- ため池又は揚水機場で取水し開水路により送水する供給主導型システムとなっている。
- 吉田沢ため池・待入ため池からの用水流末は標高の低い男潟に流入する構造となっている。



(各施設の状況)

吉田ため池・松下堤

形式	堤高	堤長	貯水量
アースダム（表面遮水壁型）	18 m	230 m	957千m3

- 馬踏川支線の吉田沢に位置するため池であり、比較的集水域が小さいため、白山頭首工からの補水を受けることが可能となっている。
- 貯水は2本の隧道を通じそれぞれ金足地域と下新城地域において利用される。
- 金足地域に向かう隧道は、下流の松下堤の堤体下段部をボックスカルバートにより通過し、その先から開水路となる。



堤体



貯水池・取水施設（斜樋）



- 堤体下段部を吉田ため池からの用水がボックスカルバートにより通過する。

堤体



形式	堤高	堤長	貯水量
アースダム（均一型）	3.0 m	106 m	30千m3

取水施設（斜樋）



洪水吐



(各施設の状況)

黒川ため池

形式	堤高	堤長	貯水量
アースダム（中心コア型）	13.9 m	75 m	150千m3

■ 馬踏川の上流部に位置するため池であり、貯水は下流の黒川第1頭首工及び黒川第2頭首工により取水され、金足黒川地域等において利用される。

堤体



貯水池



黒川ため池の沿革

本ため池は、昭和六年金足村が稲作も出来ない大旱魃にみまわれたおり、当時の黒川部落青年会長であった三浦悦郎氏が先頭にたち共有地である俗称高須沢に昭和七年救農土木事業により築造したものであり、部落民からは「高須の堤」と呼称され、下流域のかんがい用水の重要な水源となっている。

しかしながら、築造以来五十有余年の歳月が経過し、関係者により過去数回の補修・改修が行われ今日に至ったが、堤体、余水吐施設及び取水施設の老朽化が進み、豪雨時における決壊の危険も高まり、下流域への災害が心配されていた。

この度、関係機関の尽力を得て、平成二年度黒川地区県営ため池等整備事業として採択、全面改修して災害を未然に防止するとともに、安定的な水稻の用水確保はもちろん防火用水の確保にも至った。

今ここに、先人の功績と黒川の里を潤す優美な高須の堤を讃え、この地域の限りない発展を祈念し、記念碑を建立する。

平成八年三月
黒川水利組合

取水施設（斜樋）



洪水吐



(各施設の状況)

黒川第1頭首工・黒川第2頭首工

- 黒川第2頭首工は馬踏川に設置され、左岸側より取水する施設である。用水は主に金足黒川地域において利用される。
- 黒川第1頭首工は馬踏川に設置され、両岸より取水する施設である。用水は主に金足黒川地域において利用される。

黒川第2頭首工



黒川第1頭首工



(各施設の状況)

男潟（下刈揚水機場・小泉揚水機場）・女潟

■ 男潟・女潟は吉田ため池及び待入堤からの用水を貯水し、下刈・上前・小泉の3揚水機場により地区内に送水する。

下刈揚水機場



小泉揚水機場



2. 第3区 (天王：干拓調整池掛かり)

受益面積 約1,060 ha



野村揚水機場から開水路により送水する 供給主導型システム

- 潟上市に位置する3区の主要水源は八郎潟干拓調整池とつながる水路から取水する野村揚水機場である。
- また、地区内には排水路の水を利用する反復ポンプが複数設置され、不足する用水を補っている。



(各施設の状況)

野村揚水機場

- 野村揚水機場は八郎潟干拓調整池から、池と同水位の導水路を通じ取水し、潟上市天王地域に用水供給を行う施設である。
- 揚水された農業用水は開水路により送水されるため、供給主導型の農業水利システムとなっている。

干拓調整池からの導水路（調整池と同水位）



導路上のゲート



除塵機



野村揚水機場



揚水機場の吐水槽



吐水槽から受益地への導水路

(各施設の状況)

細谷分水工

- 野村揚水機場から導水された用水は、細谷分水工において天王1号・2号・3号水路に分岐する。
- なお、2区からの二田用水路の流末が合流する。



(各施設の状況)

天王水路

■ 天王 1 号～ 3 号水路は開水路であり、各箇所に設置された分土工から受益地に配水される。



(各施設の状況)

天王排水路・沖田揚水機

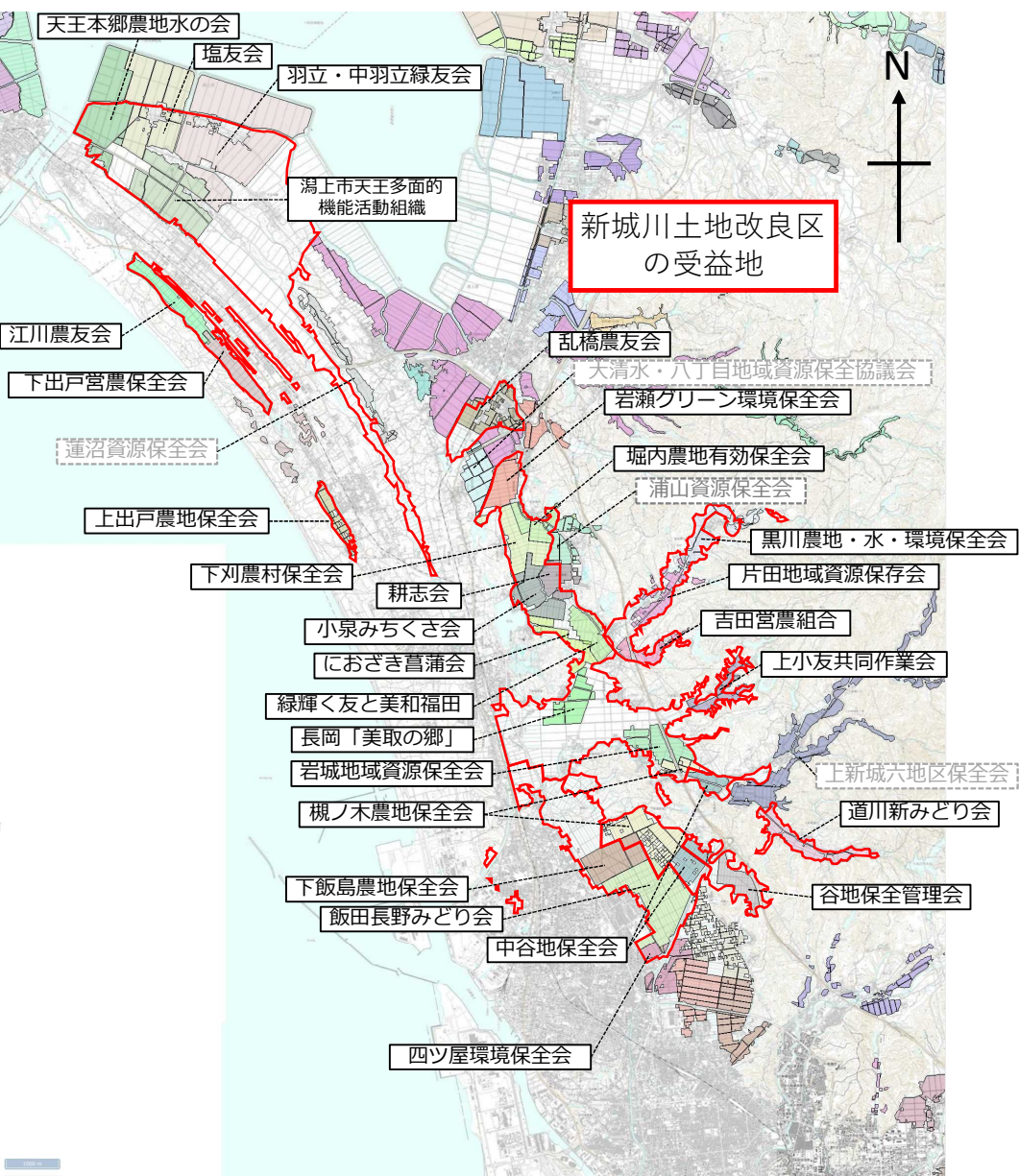
- 天王地域の中央部には長大な天王排水路が設置されており、両岸からの排水が流入する。
- 必要な用水量を確保するため、天王排水路には複数個所に揚水機場が設置されており、反復利用を可能としている。



施設の維持保全

受益地の大半が多面活動組織のカバーエリアとなっている

- 土地改良区の受益地の大半において、多面的活動組織が存在する。これらは農地維持・資源向上（共同）までを行うケースが多い。
- 一部の組織において土地改良区が構成員となっているが、事務受託は無い。

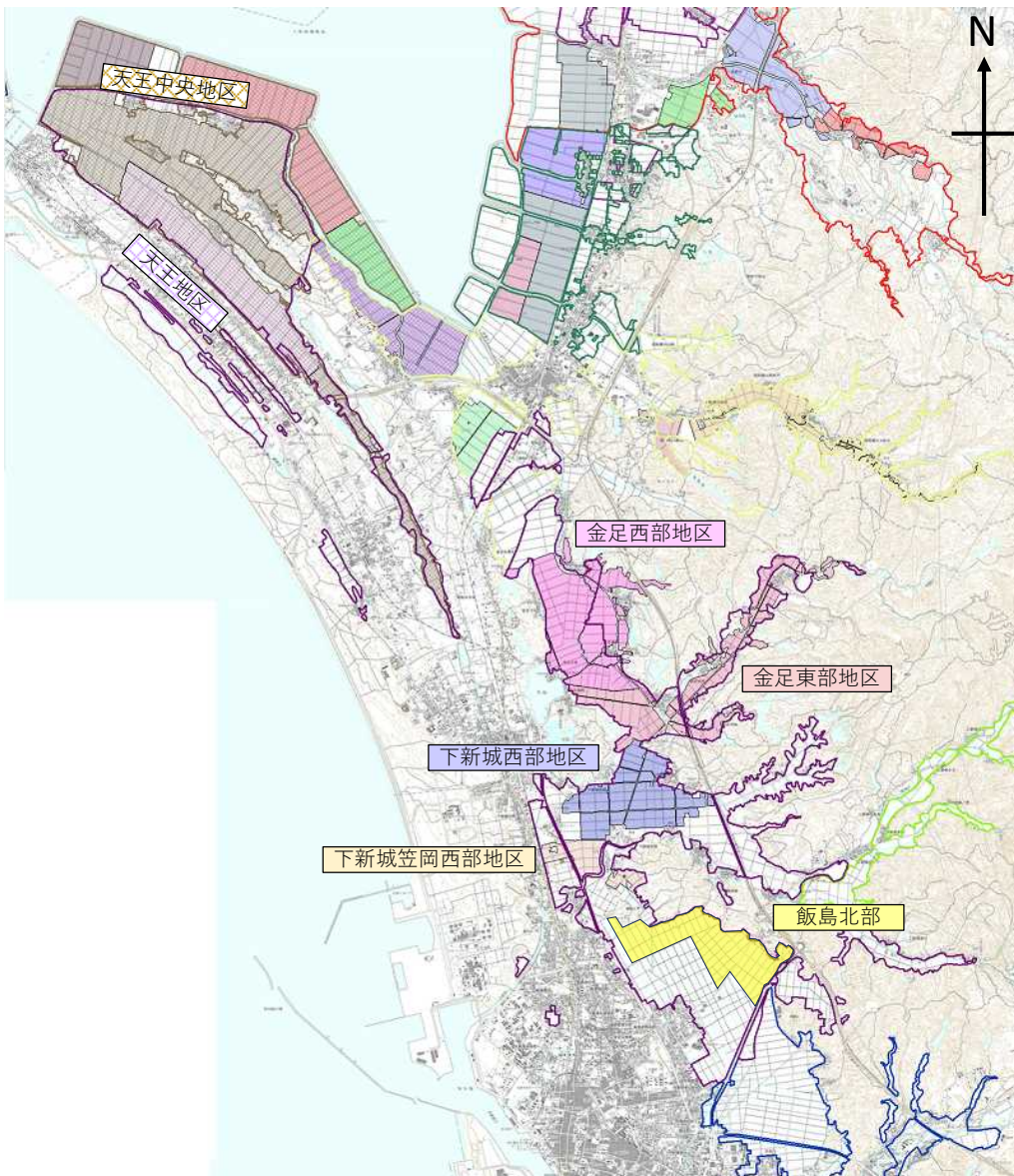


ほ場整備

地域のお大半においてほ場整備が実施されているが、南部の受益には未整備が残る

平成初期から末期にかけ、土地改良区管内の北部～中部においてほ場整備を実施。

一方、南部や上新城の沢部は未整備が残っており、令和6年時点で南部の飯島地域においては調査を実施中。



地区名	制度	工期	受益
天王	土地総	H3～H6	233 ha
天王中央	土地総	H3～H15	540 ha
下新城西部	担い手	H10～H18	170 ha
下新城笠岡西部	加速化	H29～R4	45 ha
金足西部	加速化	H30～	229 ha
金足東部	加速化	H31～	169 ha
飯島北部	機構	R6～	146 ha

地域の歴史

- 流路**21km**の一級河川新城川を主要水源とする地域では、流域が狭く常に旱魃に悩まされてきた。このため昭和6年当時天王村長であった二田是儀氏が関係村長と協議し新城川普通水利組合を設立した。
- 第1期工事として新城川支流の道川に大滝沢溜池を築造、以降、昭和**31**年までに7ヶ所の溜池を新たに築造するとともに、新城川上流部から各溜池まで総延長**5.7km**の導水トンネルの工事を行い秋田市地区**1,400ha**の用水不足を解消した。
- 天王町地区については、慶応年間に二田氏によって開設された延長**18km**の二田水路に依存していたが、なお用水不足のため昭和**31**年度までの工事により、昭和町野村地区に揚水機を設置し、八郎潟から用水供給することにより、旧天王町・旧昭和町**1,100ha**の用水路確保した。
- 昭和**24**年の土地改良法の施行に伴い、昭和**27**年に現在の新城川土地改良区に組織変更した。

沿革

年	事 項
昭和6年	新城川普通水利組合として設立
昭和27年	新城川土地改良区に組織変更